

学校法人 東京キリスト教学園
2011 年度事業報告

(2011 年 4 月 1 日 - 2012 年 3 月 31 日)

2011 年度事業報告の総括

学長 倉沢正則

2011 年度本学の最重要課題は 3 つあった。一つは、大学院神学研究科の設置申請業務と文科省の認可を得ることで、2011 年 10 月 24 日に無事に認可を受けることができた。二つ目は、大学基準協会による認証再評価のための報告書提出と「適合」を得ることで、2012 年 3 月 9 日に同協会から大学基準を満たしているとの評価を得た。三つ目は、2010 年度に発足した「東京基督教大学『明日の世界宣教者育成』支援会」(TCU 支援会)を各地区に立ち上げることで、これまでに関東、名古屋・岐阜、関西、岡山、広島、四国、福岡・山口、沖縄の 8 地区に支援会が立ち上がり、新潟と北海道は準備中となっている。それぞれに、全学挙げての協力体制が敷かれ、目標を達成できたことの意義は大きい。2012 年度までに神学校の教会教職者養成を大学に一本化して教育課程を整えるというビジョンが実現し、本学への支援体制が動き出した年度となった。

目 次

2011 年度事業報告の総括	1
I 設置する学校・学部・学科等	5
II 学部・学科等の入学定員、学生数の状況	5
III 役員・教職員の人数	6
IV 主な事業の目的・計画および進捗状況	7
2011 年度の主な行事	9
1. 東京基督教大学	10
(1) 学長室	
①諸会議 10/②教授会 10/③チャペル 10/④自己 点検・自己評価委員会 10/⑤外部資金獲得 11/⑥海 外協定校 11/⑦加盟国際団体 11/⑧学生募集 11/ ⑨広報 13/⑩募金、TCU 支援会 13	
(2) 神学部	
①神学部 16/②神学科 16/③国際キリスト教福 祉学科 16 [国際キリスト教学専攻 16、キリスト 教福祉学専攻 17]/④教会音楽専攻科 17	
(3) 教務部	
①教務 18/②生涯学習 18/③入試 18/④国際 20/⑤教員支援 20/⑥教育情報 21/⑦イスラエ ル・スタディツアー 21	
(4) 学生部	
①学生課 22/②キャリア支援 23/③寮関係 25	
(5) 図書館 27	
(6) 附属研究所	
①共立基督教研究所 29/ ②国際宣教センター (Faith and Culture Center) 30	

(7) その他	
①大学院開設準備室	31
2. 東京基督神学校	32
3. 教会音楽アカデミー	33
4. 管理部門	35
(1) 総務部	
①総務関係	35
②食堂	35
③管財関係	37
V 2010(平成 22)年度決算の概要	38
表V-1 資金収支計算書	39
表V-2 消費収支計算書	39
表V-3 貸借対照表	39
1. 資金収支計算書	40
2. 消費収支計算書	42
3. 貸借対照表	44

Ⅲ 役員・教職員の人数

(2012年 3月31日現在)

1. 役員

理事 14人 (うち、理事長1人、常任理事4人)

監事 2人

職名	氏名	選任区分
理事長	赤江弘之	4
常任理事(学長)	倉沢正則	1
常任理事(校長)	山口陽一	2
常任理事	廣瀬 薫	4
常任理事	遠藤 潔	4
財務担当理事	青山東男	3
理事	朝岡 勝	3
理事	石川弘司	3
理事	柏木道子	5
理事	スティーブ・バーン	4
理事	フィリップ・フォックスウエル	3
理事	深澤健一	4
理事	三谷康人	5
理事	吉持 章	5
監事	中島伸一	
監事	横山武	
理事定員 10-15名 現員 14名		
監事定員 2-3名 現員 2名		

[選任区分]

- (1) 東京基督教大学学長
- (2) 東京基督神学校校長
- (3) 評議員のうちから評議員会において選任した者
- (4) 支援団体によって推薦された者のうちから、理事会において選任した者
- (5) 功労者又は学識経験者のうち理事会において選任した者

2. 教員

(1) 東京基督教大学

	専任					助手	兼任	合計
	教授	准教授	講師	助教	計			
神学部	11	9	2	1	23	2	40	65

(2) 東京基督神学校

	専任	兼任	合計
神学専門課程	3	10	13

3. 職員

法人部門	
専任	1
契約	2
パート等	1
計	4

東京基督教大学	
専任	19
契約	0
パート等	3
計	22

東京基督神学校	
専任	1
契約	0
パート等	0
計	1

IV 主な事業の目的・計画および進捗状況

2011年度の主な行事

- <2011年> * TCU: 東京基督教大学 TCTS 東京基督神学校
- 4月1日 専任教職員退修会
 講師：土肥隆一師（学園顧問、衆議院議員）
 講演タイトル「キリスト者—その多動なるもの」
- 5日 定期健康診断
- 6日 春期入学式 入学者数：TCU 37名
 国際キリスト教学専攻 7
 キリスト教福祉学専攻 5
 神学科 25 (2009.8アジア神学コースを含む)
 (1年次25、2年次1、3年次11、教会教職9名)
- 説教者：赤江弘之理事長
 同日に「新入生父母・所属教会牧師との懇談会」実施（参加者約70名）
- 7-8日 春期オリエンテーション
- 6月1-3日 スプリングリトリート
- 6月13日 避難訓練
- 6月21日 学園祈祷日
- 7月8日 夏期卒業式 卒業者数：TCU 5名（アジア神学コース5名）
 説教者：ジョエル・ケラー師（日本バプテスト連盟東京バプテスト教会
 宣教担当牧師）
- 8月26-29日 秋期オリエンテーション
- 10月10日 シオン祭
- 11月2日 創立記念礼拝・講演
 説教者：吉持章師（東京キリスト教学園理事、名誉理事長、日本同盟基
 督教団館山教会牧師）
 講演者：丸山忠孝師（東京基督神学校元校長、東京基督教短期大学元学
 長、東京基督教大学初代学長）
 講演題「歴史の中で、歴史を越えて福音に生きる」
- <2012年>
- 2月10日 学園祈祷日
- 3月9日 春期卒業式 卒業者：TCU 35名（国キ 8名、キ福 2名、神 25名）
 TCTS 19名（教職コース 17名、音楽 2名）
 説教者：堀越暢治師（東京キリスト教学園名誉理事、創愛キリスト教会
 主任牧師）
 同日に「東京基督教大学大学院開設記念祝賀会」実施（於 大学食堂 参加者
 約60名）

1. 東京基督教大学

(1) 学長室

①諸会議

理事会、評議員会、常任理事会、学園運営会議(理事長、大学学長、神学校校長、事務局長)、大学運営会議(大学学長、学部長、教務・学生・総務部長、学長室長、陪席:神学校校長)、学長室企画会議を定期的に行き、学園の経営や教育研究に関する課題の検討・企画・運営・推進などについて審議した。

②教授会

大学教授会を以下の日程に行き、入学・卒業判定、学籍異動、学生指導などの各種議題を審議した。

4/12、5/10、*5/31、7/1、9/13、10/4、*10/25、11/29、1/10、2/7、3/2、3/16 (*は学園教授会)

③チャペル

a. 原則学期中の火曜日から金曜日、11時20分から11時50分に行った。出席者は学生と教職員。メッセージは、本学園の教職員、理事、監事、評議員、支援教派教会の牧師等外来講師(約10名)、最終学年の学生等によって行われた。基本的な内容は以下の通り。

前奏／賛美／主の祈り／メッセージ(説教、証)／祈り／報告

b. チャペルの充実と活性化を目的とした「チャレンジチャペル」を以下の要領で実施した。

(ア) 学期に一度ワークショップチームによる賛美リード

(イ) 月に一度アジア神学コース生による英語のチャペル

(ウ) 学期に一度、神学校音楽科のチャペル

c. 学園祈祷日

1日かけて学校、クラス、個人で祈り、その後全体で通常より長い礼拝をもった。

6月23日 講師:杉江 真師

2月10日 講師:坂本 誠師

④自己点検・自己評価委員会

a. 大学基準協会に前回の第三者評価における保留要件の改善報告書を提出して再評価を受け、同協会の大学基準に適合しているとの認定を受けた。

b. 自己点検・自己評価を大学全体のPDCA サイクルの中に位置づけ、学園中長期計画と自

己点検・自己評価、および第三者評価に基づいて、年度事業計画の確認と評価を行った。
c. 次回の自己点検・自己評価報告書作成、および第三者評価に向けた作業を進めた。

⑤外部資金獲得

- a. 平成 24 年度科学研究費助成事業に本学より 3 件の申請を行った。
- b. 千葉県福祉・介護人材確保対策事業補助金等の交付を受けた。

⑥海外協定校

新たな協定校を開拓し、学生交流や教員交流の可能性を探るため、教員を派遣して積極的に海外の大学との協議を行った。既に協定を結んでいた4校に加え、新たに米国 Geneva College、Waynesburg University、Wheaton College の3校と協定を結んだ。

⑦加盟国際団体

本学の加盟する以下の国際団体による情報やネットワークを利用し、大学運営や FD に関する知識の拡充に努めた。

- ・ Council for Christian Colleges & Universities (CCCU)
- ・ International Association for the Promotion of Christian Higher Education (IAPCHE)
- ・ Food for the Hungry International Federation (FHIF)

⑧学生募集

a. 学内事業

(ア) 学生募集委員会

月 2 回、計 13 回開催した。

(イ) オープンキャンパス

・ 114 名参加 (4/2 [2 名]、5/5 [9 名]、6/25 [11 名]、7/23 [13 名]、8/27 [16 名]、10/10 [38 名]、11/3 [7 名]、1/21 [11 名])

・ 一日体験入学：7 名参加

・ オープンキャンパス参加者には教職員がフォローアップを実施した。

(ウ) 資料請求者へのフォロー

全員にオープンキャンパスを案内し、高校 3 年生には教職員がフォローアップを行った。

(エ) 関係教会へのアピール

学生の実習教会・在籍教会にオープンキャンパスの案内を送付した。

(オ) 在学生の学生募集活動への巻き込み

学長室広報で学生広報スタッフを組織した。学生募集との連携ではオープンキャンパスでの前泊者への対応、学生タイムの企画を行った。また、キャンプ訪問時に現地で奉仕して

いる学生にPR面で協力を依頼した。

(カ) チャペルコンサートを教会音楽専攻科学生募集に活用

チャペルコンサート(6/24)を音楽専攻教師陣の出演により開催し、好評であった(聴衆170名)。

(キ) TCU 支援会と連携協力

各地区支援会への出張時に、教会やチャーチスクールへの訪問を行った。

(ク) 学長室広報との連携協力

・大学カタログ：教会・同窓生 6500 件に発送

・キリスト教福祉専攻・国際キリスト教学専攻チラシ：教会・同窓生 6500 件に発送

・大学院・福祉貸付制度チラシ：教会・同窓生 6500 件に発送(内 1500 件には大学カタログ、教会教職パンフレットを同封)

・学生募集ツールとしてオリジナルバッグを作成した。

b. 訪問事業(教会関係)

(ア) 出願候補者がいる教会への訪問等

事項(イ)の一環として行った。

(イ) 本学卒業生の牧会する教会、および会員数100人以上の支援教会等の訪問20件の教会を訪問した。

(ウ) 新入生所属教会への訪問

9件の教会に訪問した(新入生所属教会総数30のうち)

(エ) 「教会音楽専攻科」アピールのための教会等訪問

教会5件(学園デー2件含む)、総会(集会)1件の計6件の訪問を実施した。

c. 訪問事業(その他)

(ア) ミッションスクール訪問

11校を訪問した(指定校は16校)

(イ) キャンプ訪問

春に3件、夏に13件のキャンプを訪問した。

(ウ) 教団総会訪問

3件の教団総会を訪問した。

(エ) 福祉関連施設/教会での模擬授業・講演

27件で実施した(事業所[施設]4件、教会14件、総会[集会]1件、キャンプ6件、学校2件、)

(オ) チャーチスクールへの訪問・模擬授業

16校を訪問し、2件の模擬授業を行った(協定校数6校)

(カ) 各教団牧師会への訪問

1件の訪問を行った。

(キ) アジア神学コース学生募集

200 箇所パンフレットを送付し、ケニア・ウガンダを訪問した。

⑨広報

a. 印刷製本・発送関係

- (ア) 大学案内修正版完成
- (イ) オープンキャンパスハガキ、チラシ作成、配布
- (ウ) 別冊パンフレット作成

国際キリスト教学専攻、キリスト教福祉学専攻、大学院の各チラシを作成し配布した。

(オ) 学園報を年 3 回 (4、7、12 月) 発行した。

(カ) その他広報物

- ・クリスマスカード (11 月) : 2,000 部作成(11/22 納品)
- ・オープンキャンパスグッズ (随時) : オリジナルバッグを製作した。
- ・次年度大学カタログ作成、配布

b. Web 関係

(ア) 2012 年度 Web サイトリニューアル作業を行い、12 年度 4 月中旬に新サイトへ切り替え。

(イ) 動画コンテンツの充実を図る : 教員紹介ビデオ作成は Web サイトリニューアル後の次年度に持ち越した。

(ウ) ソーシャルメディアを活用した広報の検討 : Facebook、Twitter 公式アカウント運用を開始した。

c. 以下の媒体に広告を掲出した。

- (ア) いのちのことば社関係 (クリスチャン新聞、百万人の福音) へ広告掲載
- (イ) ちあにつぼん : チアマガジン(年 2 回)へ広告掲載
- (ウ) Japan Harvest (年 3 回) へ広告掲載 (アジア神学コース)
- (エ) キリスト新聞神学校特集 (11 月) へ広告掲載

d. その他

(ア) 学生広報スタッフを組織。学生の視点からの広報展開を検討し、ソーシャルメディアも活用しながら入試広報を展開した。毎月 1 回ずつ打合せを行い、広報活動の検討を行った。成果として、国際・福祉チラシ、オープンキャンパスでの学生企画、宿泊者対応などが挙げられる。

(イ) 大学院申請承認に向けた広報展開。

- ・キリスト教メディアへの記事掲載対応、広告掲出を行った。
- ・大学院チラシを作成、配布した。
- ・Web サイト、Facebook 等のネットメディアでの広報展開を行った。

⑩募金、TCU 支援会

募金目標:明日の世界宣教者育成募金:10,000万円(会員数2000)

(内訳: 学園献金 9,000万、夏期伝道献金 150万、教会音楽献金 300万、留学生奨学金基金 250万、教会教職者志望学生奨学金基金 300万)

募金結果: 明日の世界宣教者育成募金: 5,857万円 (会員数1024)

(内訳: 学園献金 5,410万、夏期伝道献金 148万、教会音楽献金 87万、留学生奨学金基金 145万、教会教職者志望学生奨学金基金 67万)

重点活動

a. TCU 支援会 会合の開催

(ア) センター会議を計15回実施した(4/6、4/19、5/12、5/18、5/30、6/27、7/19、9/5、10/7、10/28、12/9、12/14、1/23、2/20、3/28)

(イ) 全国戦略会議を実施(3/26)

b. 関東地区支援会をはじめとする各地区支援会の立ち上げ

(ア) 関東、名古屋・岐阜、関西、岡山、広島、四国、福岡・山口、沖縄の8地区に支援会が設立

(イ) 新潟に支援会準備会が設立

(ウ) 北海道、岩手・仙台・福島、など設立準備中

c. 学園デーの開催

(ア) 倉敷・岡山: 学園デー(5/28・29実施)

(イ) 四国: 山口陽一校長講演会(11/20実施)

(ウ) 関東: 第1回 TCU のつどい(12/2実施)

d. 特別支援会員の開拓

(ア) 各地区支援会との連携強化

(イ) 理事長訪問による教会教職者奨学金の開拓

(ウ) 学長・学部長による大口献金者訪問(海外)

e. PR 環境整備

(ア) TCU 支援会パンフレット作成の作成 5月実施

(イ) 入会記念品の作成(5月実施)

(ウ) 専用献金袋の作成(5月実施)

(エ) TCU 支援会ホームページの作成(5月実施)

(オ) TCU 支援会会計システムの作成(6月実施)

f. PR 活動

(ア) 学園報内支援会ページの作成(4、7、12月実施)

(イ) 入会案内の単独発送(5月実施)

(ウ)入会礼状の発送(6月、随時実施)

(エ)夏期特別献金のお願い(7月実施)

(オ)冬期特別献金のお願い(12月実施)

(カ)特定公益増進法人への税制優遇措置案内(1月実施)

(キ)寄付金の年度集計及び礼状の作成 (2012年度4月発送)

(ク)訪問 PR(随時実施)

・福岡・山口、広島、大阪、名古屋、四国、沖縄、新潟、岡山、札幌の地区訪問 実施

・教会訪問 実施 103件 (24の教団教派と単立)

(2) 神学部

①神学部

- a. 現行カリキュラムの完成年度を迎えて、冬学期にその教育内容と効果についての評価を行った。
- b. 前回認証評価の指摘事項について、一部、学生募集に課題を残すが、全般として改善ができたと判断している。
- c. キリスト教福祉学専攻では最初の卒業生を送り出した。
- d. 10月24日付で大学院神学研究科設置が認可され、教会教職専攻より15名が卒業、うち12名が本学大学院に進学した。
- e. 学生募集では、神学科の入学者が目標を超え、神学研究科も17名（定員18名）を受け入れた。しかしキリスト教福祉学専攻の入学者は1名であった。
- f. アジア神学コースに奨学生5名・自費学生1名が入学し、East Asia Instituteでは10名（うち、バイオラ大学から交換留学生5名）を受け入れた。
- g. バイオラ大学の短期交換留学生として神学科生1名を派遣した。またダブルディグリー生1名がバイオラでの課程を修了して秋学期より本学に復学した。
- h. Geneva Collegeが新たに協定校となり、協定校は7大学となった。
- i. FD活動としては、学生による授業評価アンケートを教授会で講評し、教員による授業の相互評価とアカデミック・ポートフォリオを実施している。学部と大学院の教育理念とカリキュラム理念について、夏に教授会フォーラムを行った。

②神学科

新カリキュラムへの移行を順調に終えた。教員相互の授業参観は、今後とも継続していくことが望まれる。大きな問題は見あたらない。

課題となっていた教会教職の聖書言語履修に関しては、新年度に向け、グレード別のクラスを設けること、あるいは、大学院生によるティーチング・アシスタントを活用することを計画している。

③国際キリスト福祉学科

国際と福祉の働き人育成、ボランティア・スピリットと隣人愛に富んだワーカー育成のための人格教育を継続したほか、両専攻間の具体的なカリキュラム調整について話し合いを進めることができた。学生募集を十分に達成できなかったが、大学院開学へのキャンペーンを優先した面もあり、来年度はこの方面に新機軸を出していく予定。

a. 国際キリスト教学専攻

夏季休暇中の海外語学研修、異文化実習とも充実のうちに終了した。通常の授業も無事終

了し、現行カリキュラムの完成年度を終えることができた。卒業論文ゼミ、卒業論文の提出、審査も無事終わったが、卒論執筆者が少なく、学生をどう励まして卒論完成に導くかについて、課題が残った。また旧カリキュラムの学生も全員が卒業した。学生たちの成長に、カリキュラムの改善が一定程度貢献していることも看取できた。専攻としては数度の会議及びメール等での情報交換により、実習科目の充実、よりきめ細かい学生対応、及び国際色豊かな学内環境の一層の活用という方向で話し合いを進めることができ、来年度以降のさらなる改革の具体化に向けてよい準備ができた。

b. キリスト教福祉学専攻

実習施設の新規開拓を行って実習を委託した。訪問介護の実習先を印西市近辺で確保することが困難であったが、川崎市の事業所との提携により解決をみた。初めての卒業生を送り出し、就職もキャリア支援室と連携をとりながら学生の希望を達成することができた。また、4名の福祉専攻教員が執筆に参加した『これからの福祉と教会－高齢化社会への備え』（いのちのことば社）が刊行され、今後の学生募集への活用が期待される。

④教会音楽専攻科

初年度の入学者がいなかったため、学生募集のためのコンサートの開催を含め、機会あるごとに専攻科のアピールに努めた。

(3) 教務部

①教務

- a. 情報公開に備え、教務基本情報のデータ整備・蓄積を行った。
- b. 大学院設置が正式に決定したことを受け、学部と研究科において重複している科目の整理を行った。また次年度以降の変更に向けて新たな教育課程の検討を進めた。
- c. 大学院設置に向けた業務量増加に対応して、複数職員による業務の共有化の推進など、執務体制の強化を図った。

②生涯学習

- a. 高座エクステンション
9/10、17、10/1、8「福音の真理を堅持するために」講師：伊藤明生（受講生 36 名）
- b. 福岡エクステンション
11/3「日本人の葬儀の歴史とキリスト教葬儀の宣教的意義」講師：大和昌平（受講生 25 名）
- c. 地方エクステンション
予定していた福島での実施は東日本大震災のため見送り、丸の内エクステンションを実施した。
 - (1) 東海エクステンション
6/11「般若心経の空と聖書の空」講師：大和昌平（受講生 66 名）
 - (2) 丸の内エクステンション
1/20、27、2/10、17、24「現代世界と聖書」講師：小林高德（受講生 31 名）
- d. 2012 年度以降のエクステンション事業の検討
2012 年度は 2011 年度の事業を継続することとした。但し、福岡エクステンションは、支援会発足のため 2011 年度をもって終了とした。

③入試

- a. 入学者選考の適正化と充実をはかるため、以下の委員会・小委員会を実施した。
入学者選考委員会、A0 入試小委員会、出題・採点小委員会、面接小委員会、音楽専攻科小委員会、アジア神学コース入試小委員会
- b. 入学試験の実施
 - (ア) 一般入試
 - 秋季入試 (6/29) 志願者なし
 - 第Ⅰ期 (2/2) 志願者：7 名、受験者：7 名、合格者：7 名、入学者：7 名
 - 第Ⅱ期 (3/15) 志願者：5 名、受験者：5 名、合格者：4 名、入学者：4 名
 - 第Ⅲ期 (3/31) 志願者：1 名、受験者：1 名、合格者：1 名、入学者：1 名
 - (イ) 推薦入試

- 11/25 志願者：5名、受験者：5名、合格者：5名、入学者：4名
- (ウ) A0入試
- 第1回(9/9) 志願者：6名、受験者：6名、合格者：6名、入学者：6名
- 第2回(11/25) 志願者：11名、受験者：11名、合格者：11名、入学者：11名
- (エ) アジア神学コース入試
- <2011年8月入学> 書類選考／電話面接(2月)、現地面接／筆記試験(3月)
- 志願者：35名、受験者：35名、合格者：9名、入学者：6名
- <2012年4月入学> 書類選考／面接／筆記試験(3月)
- 志願者：1名、受験者：1名、合格者：1名、入学者：1名
- (オ) 大学院入試
- 学内推薦入試(12/20) 志願者：12名、受験者：12名、合格者：12名、入学者：12名
- 第一期一般・留学生入試(2/2)
- 志願者：5名、受験者：5名、合格者：4名、入学者：4名
- 第二期一般・留学生入試(3/15)
- 志願者：1名、受験者：1名、合格者：1名、入学者：1名
- (カ) 教会音楽専攻入試
- 第1回(11/25) 志願者なし
- 第2回(2/2) 志願者1名、受験者1名、合格者1名、入学者1名
- 第3回(3/15) 志願者なし

c. 2012年度入試結果

(ア) 入学者選抜定員：35名(神学科15名、国際キリスト教学専攻10名、キリスト教福祉学専攻10名)

入学者：27名(神学科：21名[うちアジア神学コース7名]、国際キリスト教学専攻5名、キリスト教福祉学専攻1名)

(イ) 編入学者選抜定員：10名

入学者13名(神学科3年次教会教職専攻11名、神学科3年次神学専攻1名、神学科4年次教会教職専攻1名)

(ウ) 大学院神学研究科定員：18名

入学者：17名

(エ) 教会音楽専攻科定員：5名

結果：1名

d. 募集要項の作成および出願書類の管理

(ア) 昨年から引き続き入試事務室(本部棟2F)を設置し、入試問題の作成や受験生資料の管理を行った。

e. 合格者に対する入学前教育を実施した。

(イ) 対象：第1回、第2回 A0 および推薦入試合格者

内容：「教会生活日記」と「聖書通読」を課す。

④国際

- a. East Asia Institute (EAI)：プログラムを見直し、秋学期に5名受入れ。
- b. バイオラ大学 Double Degree Program：バイオラでの2年の学びを終えて1名が帰国。2011年度には新規派遣候補者なし。
- c. バイオラ大学への短期派遣留学：秋学期1名を派遣。
- d. 海外派遣プログラムについて、2011年度からの新たな危機管理体制のもとで安全に配慮したプログラムを実施した。

⑤教員支援

- a. 大学院が設置されるのを機に、3年次編入による学生数増に対応してTA（ティーチング・アシスタント）の制度を新設した（2012年度より）。
- b. 2011年度の個人研究費受給者は25名。また2011年度のサバティカル・リープ取得者は2名、専任教員特別研修費取得者は1名であった。

c. ファカルティー・ディベロップメント

(ア) 教員研修会の企画・実施

8月25日「TCUにおけるリベラルアーツ教育とキャリア教育の関係」

講師：渡辺三枝子氏（立教大学大学院教授）

(イ) 教授会フォーラム、FDフォーラムの企画・実施

現在の教育内容について学科・専攻ごとに検討した。(8/25)

(ウ) 相互授業参観・評価会の企画・実施

昨年度からの継続で相互評価を行っている。全体のフィードバックは教授会にて行い、また学部長面談において個別指導も行っている。

(エ) アカデミック・ポートフォリオの推進と活用

2010年度のポートフォリオを4部門（教育・研究・大学運営・社会貢献）について収集し、7月下旬に学園ホームページにて公表した。

(オ) FD冊子作成

2010年度のFD活動冊子を刊行（8/15）

(カ) その他

- ・ 学内研修（教授会内研修、読書会など）
- ・ 研究科教員で、大学院設置趣意書の読み合わせを行った。
- ・ 教授会において成績管理に関するワークショップを開催した（2/7、3/2）。
- ・ 学外研修参加

- 9/29-30 東アジア高等教育質保証国際シンポジウム
- 10/8 法政大学第9回FDシンポジウム「本当に必要なFD活動とは一実質化のための支援・教育評価」
- 3/8 第1回テニユアトラック制に関する全国シンポジウム「テニユアトラック制による卓越した若手研究者の育成に向けて」（主催：文部科学省）

⑥教育情報

- a. コンピューター教室のコンピューター（24台）入れ替えを完了。
- b. 福祉棟の無線アクセスポイント整備（4月、福祉棟にアクセスポイント4台設置完了）。
- c. TCUオンラインの授業アンケートシステムを改善。アンケートの自動集計ソフト完成（10月）。
- d. 教室へのプロジェクターの設置（8月、大教室へのプロジェクター設置完了）。

E. 教育コンテンツの作成方針の検討

教育コンテンツを提供するためのプラットフォームを検討したが、結論をまとめるまで詰められなかった。

⑦イスラエル・スタディツアー

研修旅行の定期開催化と、次回（2012年度中）の開催に向けた準備を行った。

(4) 学生部

①学生課

* TCU=東京基督教大学、TCTS=東京基督神学校

a. 健康相談室（校医：稲葉裕、森清）

（ア）健康相談日：各学期に2回（年6回）校医が来園し、健康相談室で相談を受け付けた。
（5/27、6/15、10/5、11/14、1/18、2/17）

（イ）看護師勤務：健康相談日補助

前項の健康相談日に看護師が健康相談室で勤務を行った。

b. 定期健康診断（学園）

日程：4月5日

人数：194名受診（教職員含む）

c. 夏期学生派遣プログラム（夏期伝道）

日程：7月9－18日

テーマ：ともに福音の恵みをうける夏期伝道

人数：64名程度（TCTS の学生と家族を含む）

9チームを日本各地の教会へ派遣。

d. スプリングリトリート（TCTS と合同開催）

日程：6月1－3日

場所：レイクホテル西湖

テーマ：偉大な王、偉大な神～This is Our God～

講師：米内宏明師（日本バプテスト教会連合 国分寺バプテスト教会主任牧師）

人数：192名（学生・教職員）

e. 学生相談室

（ア）外部カウンセラーが週1回勤務した。

（イ）春学期はカウンセラー1名で月曜日に10回、秋学期からは2名体制に戻り、月曜日9回、火曜5回、冬学期は月曜8回、火曜5回に実施した。

（ウ）各学期1回ずつのブレイクタイムを実施した。

f. 学園派遣海外ワーカー

キリスト教団体の海外ワーク参加に対して補助金を出し、異文化体験を促した。

（ア）4月募集→4月選考・決定→6月支給→7－8月海外ワーク→9月報告チャペル→
10月シオン祭発表

（イ）4月に日本ウィクリフ、OM 日本からの海外ワークを募集したが、応募者がなかった。再度9月に日本ウィクリフの海外ワークを募集したが、応募者がなかったため実施しなかった。

（ウ）昨年度3月に日本ウィクリフの海外ワークに参加した学生が、シオン祭で展示をした。

g. 障がい学生修学支援委員会

(ア) 聴覚障がい学生への講義保障の実施

聴覚障がい学生2名に対して、ノートテイクを提供し、FM補聴器の貸出を実施した。

(イ) ノートテイクへの研修の実施（春・秋学期）

第1回（6/6）聴覚障害者を理解する

第2回（12/10）パソコンノートテイクの基礎を実施した。

h. 実習教会牧師との懇談会

(ア) 今年度は東日本大震災もあり、スケジュールの関係で実施できなかった。

i. シオン祭

日程：10月10日

場所：本学キャンパス

参加者数：約1,000名（学内外）

今回は名称を「Charity Zion」とし、東日本大震災被災地支援を目的の一つとして開催された。献金及び出展団体からの収益より、合計260,645円を被災地支援のため、NPO法人グローバルミッションセンター（福島県いわき市）へ送金した。

j. 奨学金

下記の種奨学金を奨学金委員会で選考のうえ、教授会で審議決定し、支給・貸与した。

(ア) 学外奨学金

- ・日本学生支援機構：第1種採用者4名、第2種採用者10名、緊急応急採用者3名
- ・日本学生支援機構学習奨励費：4名
- ・オンヌリ教会奨学金：2名
- ・上田メソッド奨学金：6名

(イ) 学内奨学金

下記の各奨学金について、4月に募集を開始し、委員会で選考、7月の教授会で決定し、34名に総額9,736,000円を授業料と相殺支給した。

授業料半額・1/4給付：14名（2,897,500円）、震災被災者支援：1名（502,500円）、

三谷：1名（70,000円）、ホーク：1名（80,000円）、共立元木：2名（300,000円）、

教会教職課程：6名（1,250,000円）、日本宣教コース：4名（1,440,000円）、

日本宣教留学生：5名（1,000,000万円）、学園留学生：12名（2,196,000円）

・3月の教授会において、教会教職課程に1名追加（250,000円）、貸与に1名（245,000円）を決定し、授業料と相殺支給・貸与した。

②キャリア支援

a. キャリア教育科目

春学期（4/14-6/30の毎週木曜日）、以下のとおりに実施した。

(ア) キャリア支援室の教職員による講義（4回）

(イ) リアセック株式会社によるグループワーク等（2回）

(ウ) 外部ゲスト講師による講義 (4回)

b. 就職支援各講座

以下の就職支援講座を、主として2、3年生向けに実施した。

ビジネスマナー講座 6/20 (株) リアセック

自己PR+面接練習セミナー 6/27 ジョブカフェ千葉

資格ハンター説明会 6/24 (株) LEC

SPI2 対策講座 9/5・9/26 (株) ジェイブロード

企業説明会 9/8 (福) 慶美会

自己分析講座 10/24 キャリア支援室

業界研究対策講座 11/1 (株) 帝国データバンク

社会人マナー・就活マナー講座 11/4 (株) コナカ

留学生就職支援ガイダンス 12/16 キャリア支援室

求人票読み方講座 6/13、21、9/12、20、10/13、20、11/18、1/10、20、2/13、20 キャリア支援室

就職支援講座Ⅰ (内定者による下級生との情報共有) 1/30

就職支援講座Ⅱ (就職活動の基本対策) 1/31

グループ面接対策講座 3/2 NPO 日本キャリア開発協会

企業説明会 3/6 (株) GAIN

c. 個別相談による就職・進路選択支援 (通年、全学年対象)

(ア) 就職活動 (自己分析、業界研究、履歴書・エントリーシート対策、面接対策) の支援のため教職員3名が適宜対応した (2011年4月ー2012年3月末までの延べ人数563名【20日稼働1日平均2.34人】)

(イ) その他、就職支援に必要な業務

d. インターンシップの充実

(ア) 事前指導、事後報告を含めた科目とした。

インターンシップ事前指導 4/8

(イ) インターンシップ先との連携 (TCUと提携している企業)

[企業インターンシップ受入先]

株式会社ノア (精密機器)

三陽工業株式会社 (デザイン・印刷)

株式会社 GAIN グループ (情報通信)

[福祉系インターンシップ] 学生4名が3施設で実施

喜楽希楽サービス (1名参加)

学校法人西村学園 印西しおん幼稚園 (2名参加)

社会福祉法人 慶美会 (1名参加)

止揚学園

社会福祉法人 印旛福祉会 いんば学舎

社会福祉法人 ベタニヤホーム こひつじ保育園
医療法人社団 千葉医心会 千葉ニュータウンデイサービスセンター
社会福祉法人 寿楽園

e. 新規求人先の開拓

(ア) 以下の企業を新規に開拓し、うち3社の内定を獲得した。

(株) ガルフネット、(株) 東日本フード、(株) パーキングマーケット、
(株) ビリーブライフ神奈川店、NPO 法人 障害者通所施設 オーロラ

③寮関係

a. 寮生活への支援と指導の充実

(ア) 寮懇談会の実施

4/19、6/7、9/13、10/20、1/31、2/21 に実施した。

(イ) 寮のリーダー（寮運営委員、共同体長、まざあ）の祝福チャペルの継続

6/7 に共同体長・まざあ祝福チャペル、11/30 に寮運営委員祝福チャペルを実施し、全学的に寮生リーダーを認知し、学生・教職員の意識を高めることによって、尊敬と祈りをもって支えていく雰囲気醸成に努めた。

(ウ) Acts 生活アドバイザー（有給）によるアジア神学コース新入生のサポートの継続

男性2名、女性3名に Acts 生活アドバイザーを任命し、1月までそれぞれの学生のサポートと学校への報告を行った。併せて短期留学生10名のために、男性1名、女性1名のアドバイザー（有給）を任命し、12月中旬までサポートした。

(エ) 寮主事の学生相談研修会への派遣

予算の関係で今年度の派遣は行わなかった。

(オ) 各寮の自主的講演会企画のための経済的支援の実施

家族寮では、夏に家族寮生のリトリートを企画し、講師費用の補助をした。

(カ) 日常的な健康管理の啓発の実施

インフルエンザの注意喚起と予防接種の推奨を行った。

(キ) 富士薬品常備薬の配備の継続

例年通り、男子・女子寮に常備薬を配備した。

(ク) 食器洗い補填作業の継続【与えられた責任を最後まで果たすことを学ぶため】

春学期は4月5日夕食から7日夕食までで全7回、秋学期は8月25日夕食から9月2日朝食まで全9回の補填日を設けて、補填作業をさせた。

(ケ) お掃除講習会の実施（寮外環境美化1回、寮内環境美化数回を予定）

実施しなかった。

(コ) お掃除チェックの実施（学期に1回程度）

各寮でそれぞれお掃除チェックを実施した。

b. 全人格的教育の充実に向けて

(ア) 学生による寮（施設・主事・スタッフを含む）の評価システムの作成
今年度は未実施であった。2012 年度に自己評価書を全面改訂し、寮の評価・改善に取り組む。

c. 環境美化

(ア) 4月初めに寮内環境美化を実施した。

(イ) 教員を環境美化に招待して教員・寮生の関わりの場を設ける予定であったが、環境美化が寮内の作業となったため実施しなかった。

d. その他

(ア) 危機管理の充実

5/10 夕食後、地震に重点を置いた防災訓練を実施した。

(イ) 英語圏留学生対象防災訓練の実施

9/12 にアジア神学コース新入生と短期留学生を対象とした防災訓練を実施した。

(ウ) 独身寮浴槽の水質検査の実施

2/9 に浴槽の水質検査を実施し、男女子寮とも検査に合格した。

(5) 図書館

2011 年度組織構成員

図書館委員会：伊藤明生（委員長）中澤秀一、宮脇聡史、（柴田敏彦）、

専任職員：阿部伊作 契約職員：伊藤由貴子

①東日本大震災後の対応・復旧について

- (ア) 床落下資料約 5000 冊の復旧をボランティアと共に行った。
- (イ) 図書館内壁外壁のクラック確認など診断を受けた。
- (ウ) 2 階の傾斜また床ずれした書架と水道管破裂の対応補強が業者によりなされた。
- (エ) 落下による傷み本の修復、アーカイブズ室の復旧を行った。
- (オ) エアコン室外機周りの放射能除染清掃を行った。

②文科省補助金申請について

ヴァチカン写本の申請を行った。（不採択）

③大学院準備、資料の収集・整備

- (ア) リベラルアーツ資料の充実に努めた。
- (イ) レファレンス重点補充など（大学院準備）、特に電子ジャーナル、オンラインデータベース（ATLA など）の補充を行った。

④機関リポジトリの構築

教務課とタイアップして教員とその学術資源のポータル立ち上げを業者へ依頼、準備中である。

⑤情報リテラシー教育を実施

初年度教育として、一年生の授業科目「情報リテラシー」の 1 コマを図書館員が担当した。

⑥展示

- (ア) 春学期 情報リテラシー関連図書の展示と冊子発行
- (イ) シオン祭を開催日を含む 10/10-21 に企画展「大高重治手書きの世界展」を開催した。また展示図書のアンケート投票を実施した。（来館者約 100 名）
- (ウ) クリスマス関係など時期に合わせたミニ展示を開始。

⑦図書館の社会貢献

企画展を行った大高重治氏について図録としてまとめ、『大高重治手書きの世界』を発行、関連機関団体へ寄贈した。（10 月）

⑧学内資料の移管について

大学院設置、神学校閉校に伴い、神学校棟にあった音楽関係資料を図書館へ移動した。

⑨その他

私立大学図書館協議会助成の個人研究を継続して研究した。

⑩今年度中間統計

開館日数：237日（土曜を含む。土曜開館日数は32日）

貸出の点数・人数：10204点・3651人

受入資料点数：2614点（購入、寄贈、研究費による購入を含む。定期雑誌は含まない）

(6) 附属研究所

① 共立基督教研究所

a. 研究所全般

(ア) 4月より公共福祉研究センターを開設し、記念シンポジウムを開催した。

b. 研究会活動

(ア) 「マネジメント&ケア研究」プロジェクト

前年の活動を土台に5月に公共福祉研究センター創設記念シンポジウムを開催した。

(イ) 基督教と日本文化研究会 (座長：櫻井罔郎)

活動の実施がなかった。

(ウ) 「グローバル市民社会形成とキリスト教」 (仮称 座長：宮脇聡史)

活動に向けた準備を行ったが、教員の転出により実施に至らなかった。

(エ) 外部研究会との連携

・公共福祉研究会・東京 (会場：キャンパスイノベーションセンター [田町])

7—10月まではほぼ毎月、第Ⅰ期の研究会を継続し、12月以降、第Ⅱ期を継続中。2/21には、学内研究会として「教会の公共的役割と医療・福祉—看護の現場から」を開催。

・公共福祉という試み (賀川記念館総合研究所 連続研究会 [神戸])

稲垣所長が講師として連続研究会を継続、2012年の国連国際共同組合年に向けた活動を行った。

・公共哲学カフェ

3/20に共催によりシンポジウムを開催した。

c. 共立基督教研究所 研究助成

以下の2件の個人研究を採択し、研究課題が実施された (研究費：各20万円、期間：1年間)。

岡村直樹教授「宗教学研究におけるグラウンデッドセオリーの有用性」

片岡政子准教授「介護保険事業による訪問介護・看護と公共福祉」

d. シンポジウム

下記のシンポジウムを開催した。

・5月7日 キャンパスイノベーションセンター

シンポジウム「公共福祉への転換—市民がつくる福祉社会へのメッセージ」

主催：共立基督教研究所 公共福祉研究センター、千葉大学地球環境福祉研究センター

・印西、福祉のまちづくりフェスタ (千葉県福祉・介護人材確保対策事業)

日時：2月25日 会場：イオンモール千葉ニュータウン

主催：千葉県福祉・介護人材確保対策事業 印旛地区推進協議会

企画・実施代表団体：東京基督教大学 (公共福祉研究センター)

・シンポジウム「震災復興から持続可能な福祉社会に向けて—宗教は公共的な役割を果た

せるか？」

日時：3月20日

主催：共立基督教研究所 公共福祉研究センター、公共哲学カフェ

会場：文京シビックセンター 会議室

②国際宣教センター (FCC Faith and Culture Center)

a. 専門部会

(ア) 教会教職継続プログラム

ホームカミング「21世紀牧師の喜怒哀楽」

日時：6月20日

場所：国際宣教センター館

参加人数：13名

(イ) クリスチャンビジネスの信仰とスキル (10/29)

申込みが催行人数に達せず開催しなかった。

(ウ) 世界宣教研修セミナー (11/21-24)

申込みが催行人数に達せず開催しなかった。

b. 世界宣教講座

日程：5月16-20日

内容：学内講座3回、チャペル5回、学生早天1回、リフレクションタイム1回

講師：Enoch Wan (Professor of Intercultural Studies, Western Seminary)

c. 販売業務

ブックレット販売 100冊

(7) その他

①大学院開設準備室

2012年4月の大学院神学研究科神学専攻開設に向けた諸準備を行い、10/24に設置が認可された。

2. 東京基督神学校

(1) 神学校全体

- ①神学校閉校により神学科および音楽科が最終年となるため、在籍学生の教育の充実を第一目標とし、神学科の教職コース 17 人、音楽科が 2 人、総数 19 人が無事卒業した。
- ②写真の収集など『東京基督神学校史』編纂準備作業を継続して行った。
- ③学生と教師の間の個別的な指導・配慮のために設けられた担任制を継続して行った。

(2) 神学専門課程神学科

- ①神学科教職コース 17 名が卒業した。ATA（アジア神学協議会）認証資格を 12 名が取得した。16 名が教会および宣教団体に就職し、1 名は留学準備をしている。
- ②以下の特別講義を行った。
 - 「カルヴァン研究」丸山忠孝師（元神学校長、10/24－28）
 - 「聖餐論」坂本誠師（日本同盟基督教団 愛知泉教会、2/10）
- ③以下の特別チャペルを行った。
 - 油井義昭先生退任チャペル（2/22）
 - 柴田敏彦先生定年記念チャペル（2/24）

(3) 神学専門課程音楽科

- ①音楽科 2 名が卒業した。ATA（アジア神学協議会）認証資格を 1 名が取得した。2 名が教会音楽の働きに従事することとなった。
- ②天田繫氏の教会音楽ゼミで千葉英和高校に演奏訪問（12/12）、卒業記念コンサート、天田繫作曲「献身・派遣カンタータ」初演（2/27）

(4) 卒業生関係

- ①ATA（アジア神学協議会）認証資格提供の最終年となり、既卒者の申請期限も年度内となるため、卒業生に周知し、既卒者 8 人から申請を受け、審査の結果 8 人に認証資格を提供した。
- ②閉校準備をはじめ、東京基督教大学との統合に向けての 3 年目の業務を行った。
- ③閉校を見越して同窓会活動との連携、協力関係を継続・強化する業務を行った。
 - a. 祈祷課題の共有等の個々の卒業生との関係の強化に努めた。
 - b. 卒業生と学校の繋がりを緊密にするために、卒業生をチャペル説教者として招いた（5/8 遠藤潔師 [87 年卒]、5/10 関野祐二師 [90 年卒]）

(5) 出版

- ①紀要『基督神学』24 号を編集（油井・柴田担当）発行し、卒業生全員に送付した。

3. 教会音楽アカデミー

①演奏会部門

(ア)「パイプオルガンさんこんにちは Vol.11」

5月14日 テーマ：「パイプオルガン名曲アルバム」

演奏者：宇内千晴、山内吏奈（聴衆200名）

(イ)「チャペルコンサート」

6月24日 出演者：教会音楽専攻教員出演（聴衆170名）

(ウ)学内コンサート

10月14日 オルガン：黒田尚子、ピアノ：太田亜莉紗、高橋順子

10月21日 オルガン：金侑辰、声楽：半田智英子、稲垣俊也

(エ)午後のコンサート（12：20-50）

9月30日 オルガン：宇内千晴

10月28日 オルガン：早島万紀子氏

1月20日 フルート：永島美由喜氏、オルガン：宇内千晴

(オ)シオン祭コンサート 10月10日 シオン祭実行委員会による主催

(カ)クリスマスコンサート 12月16日（聴衆350名）

第1部 メサイア、コラール名曲集

第2部 バッハ カンタータ140番

(キ)卒業記念コンサート 2月17日（聴衆190名）

第1部 東京基督神学校・東京基督教大学卒業予定者によるピアノ・パイプオルガン独奏・独唱

第2部 聖書カンタータ 第七作 献身・派遣カンタータ「十字架の上よりさし来る光」

(ク)公開講座「声楽・オルガン・神学」

9月30日「(声楽)会衆賛美指揮・六種の御手」講師：稲垣俊也（参加者10名）

10月28日「(オルガン) バッハに流れるフランスの風」講師：早島万紀子氏（参加者35名）

1月20日「(神学) Soli Deo Gloria とは？」講師：大竹海二（参加者30名）

②講習会部門

7月28-30日 第40回夏期教会音楽講習会開催（参加者48名）

テーマ「感謝にあふれて心から主に歌え！」

第40回を記念しロゴマーク入りのクリアファイルを作成、参加者、関係者に記念品として配布した。

③研究発表部門

「礼拝音楽研究」61号を発行した。(2/1)

④その他

(ア) 教会音楽アカデミー委員会開催 (2回)

(イ) 部門長会議開催 (7回)

4. 管理部門

(1) 総務部

①総務関係

a. 諸規程の制定・改廃

2011年度も学園内諸規程の新規制定・改廃を実施し、整備を行った。とりわけ、東京基督神学校の閉校と大学院開設に伴う案件が多くあった。

b. その他

- 4月14－15日 会計検査院による会計検査。私学補助金、文科省からの直接補助（施設、研究設備）について行われ、特段の指摘事項はなかった。
- 6月29日 ダビデ・セドラチェック理事辞任。後任としてスティーブ・バーン理事（支援団体選出理事）就任。
- 10月24日 東京基督教大学大学院設置認可。
- 11月14日 文部科学省学校法人運営調査委員による実地調査。
- 3月9日 大学基準協会による認証再評価結果が通知され、同協会大学基準を満たしているものと認定された。

②食堂

安全で健康的な食事の提供を心がけ、食中毒の予防策と緊急時の対応を策定。器具を含めた食堂の衛生面、安全面の改善を行って、快適に食事ができるように努めた。

[実施事項]

- ・個々の衛生管理表の記入
- ・使い捨てマスク、手袋の使用
- ・月1回以上検便を提出
- ・月1回以上浄水器カートリッジを交換
- ・毎日水質検査をし、殺菌ダスターの使用
- ・手洗い、うがいを励行
- ・加熱、殺菌の徹底し、食中毒予防原則に則り、調理
- ・食品の日付管理、温度管理の正確に行った
- ・器具、食器の洗浄殺菌を確実にした
- ・まな板・包丁の使い分けを徹底した
- ・原材料・調理品（証拠品）を正確に保存した
- ・随時学生に食堂の使い方、洗浄機の使い方を指導した

・月 1 回栄養士との給食懇談会実施

- 5月 グリストラップ配水管清掃
- 6月 保健所講習2名、レオック衛生講習会12名参加
- 7月 グリストラップ配水管清掃、害虫駆除
夏休み食事実施（オープンキャンパス、音楽講習会）
- 10月 節食ランチ実施
- 11月 レオック衛生講習会11名参加
- 12月 グリストラップ配水管清掃
- 3月 グリストラップ配水管清掃

③管財関係

a. 2011年度施設設備・修繕メンテナンス等の予算・実績は下記の表のとおり。2011年度予算編成方針に則り計画的に修繕を行った。施設設備費に関しては、長期計画に基づく修繕を段階的に実施していくのが本来であるが、計画の見直しを行って経費の削減に努力した。

b. 2011年度実績

2011年度施設設備・修繕メンテナンス等 35項目の内、30項目終了。

2011年度予算 1,0891,000円に対して 7,831,266円の消化(消化率：72%)。

修繕を実施しなかった項目は、次年度以降に延期した。

2011年度施設・修繕メンテナンス等一覧

(単位:円)

分類	番号	項目	予算額	実績額	差額	備考
教育備品	1	食堂屋外冷蔵庫	1,000,000	435,000	565,000	延長2009年から
	2	ウォータークーラー(教研棟1F・2F)	220,000	196,000	24,000	2011
	3	コンピュータ室パソコン 24台	850,000	842,400	7,600	2011
	4	グラブピア 1台	660,000	546,250	113,750	2011
	5	移動台	60,000	50,400	9,600	2011
	6	高圧洗浄機	40,000	29,393	10,607	2011
	7	木製ガラス戸付き本棚(観音開、鍵付、棚5段)	40,000	39,900	100	2011
	8	大教室設置用プロジェクター	60,000	82,614	-22,614	価格変動の為、予算超過となった。 2011
	9	大教室設置用スクリーン	120,000	114,450	5,550	2011
		小計	3,050,000	2,336,407	713,593	
その他備品	10	ビデオ撮影用ワイヤレスマイク	36,000	35,540	460	2011
	11	デジタル一眼レフカメラ一式	120,000	101,265	18,735	2011
		小計	156,000	136,805	19,195	
消耗品	12	本部棟大会議室カーペット張替工事	120,000	99,000	21,000	2011
	13	教研棟無線アセスポイント3台	110,000	54,399	55,601	2011
	14	女子寮北和室畳替え(8畳)	110,000	101,050	8,950	2011
	15	女子寮北和室フライト	30,000	24,630	5,370	2011
	16	福祉棟無線アセスポイント 4台	90,000	72,880	17,120	2011
	17	福祉棟教員用カウンターチェア 3脚	18,000	17,850	150	2011
	18	教研棟用スピーカーシステム 1組	9,000	7,474	1,526	2011
	19	教研棟地デジ対応DVDプレーヤー 1台	7,000	5,431	1,569	2011
	20	教研棟用マイクアンプ 1台	6,000	5,480	520	2011
	21	布団乾燥機	7,000	420	6,580	布団乾燥機本体は在庫を流用し、I7マットのみ購入した。 2011
			小計	507,000	388,614	118,386
修繕費	22	フラーピンジ改修	400,000			(必要に応じて) 延長2008年から
	23	ゲート二ヶ所塗装	100,000			(必要に応じて) 延長2010年から
	24	オルカン館屋根塗装工事	345,000	199,500	145,500	2011
		小計	845,000	199,500	645,500	
報酬手数料	25	男女子寮・メンテナンス	500,000	614,790	-114,790	備品入替の為、予算超過となった。 2011
	26	家族寮高圧洗浄(外部污水管及び污水拵)	280,000			(必要に応じて) 2011
	27	チャハル塔鐘定期点検	150,000			総務部で実施。 2011
	28	家族・男女子寮・食堂排水管工事	500,000	47,250	452,750	2011
	29	建築設備定期検査	110,000	98,700	11,300	2011
	30	建物定期点検検査	160,000	84,000	76,000	3年毎の定期点検。 2011
	31	食堂用グリストラップ	210,000	166,000	44,000	2011
	32	教研棟・チャハル棟排水管高圧洗浄	273,000	273,000	0	2011
	33	キュービクル内掃除・配線端末交換作業	150,000	126,200	23,800	2011
	34	吸収冷温水機整備(オーバーホール)	3,900,000	3,360,000	540,000	2011
		小計	6,233,000	4,769,940	1,463,060	
家族寮支出	35	家族寮外廻鉄部塗装	100,000			(必要に応じて) 延長2009年から
		小計	100,000			
		合計	10,891,000	7,831,266	3,059,734	

V 2011（平成23）年度決算の概要

表V-1 資金収支計算書

(単位 千円)

支		出			収		入		
	科 目	予算額	決算額	増 減		科 目	予算額	決算額	増 減
1	人件費支出	358,713	359,765	-1,052	1	学生納付金収入	165,570	167,343	-1,773
2	教育研究経費支出	173,637	155,527	18,110	2	手数料収入	4,684	4,556	128
3	管理経費支出	33,294	30,820	2,474	3	寄付金収入	100,000	58,563	41,437
4	借入金返済支出	10	10	0	4	補助金収入	132,125	160,624	-28,499
5	借入金利息支出	0	0	0	5	資産運用収入	45,514	43,407	2,107
6	施設関係支出	0	0	0	6	資産売却収入	350,000	158,398	191,602
7	設備関係支出	10,667	12,983	-2,316	7	事業収入	91,946	89,303	2,643
8	資産運用支出	400,100	160,817	239,283	8	雑収入	20,003	36,230	-16,227
9	その他の支出	154,935	161,979	-7,044	9	借入金収入	0	0	0
10	予備費	13,000		13,000	10	前受金収入	59,582	47,843	11,739
11	支出調整勘定	-39,870	-33,618	6,252	11	その他の収入	146,090	156,411	-10,321
					12	収入調整勘定	-59,222	-62,030	-2,808
12	支出合計	1,104,486	848,283	256,203	13	収入合計	1,056,292	860,648	195,644
13	次年度繰越資金	194,169	254,729	-60,560	14	前年度繰越資金	242,363	242,364	0
14	計	1,298,655	1,103,012	195,643	15	計	1,298,655	1,103,012	195,643

表V-2 消費収支計算書

(単位 千円)

支		出			収		入		
	科 目	予算額	決算額	増 減		科 目	予算額	決算額	増 減
15	人件費	355,942	359,534	-3,592	16	学生納付金	165,570	167,343	-1,773
16	教育研究経費	267,963	250,663	17,300	17	手数料	4,684	4,556	128
17	管理経費	35,849	33,534	2,315	18	寄付金	101,000	58,563	42,437
18	資産処分差額	0	138,518	-138,518	19	補助金	132,125	160,624	-28,499
19	徴収不能引当繰入額	1,655	1,656	-1	20	資産運用収入	45,514	43,407	2,107
20	予備費	13,000		13,000	21	資産処分差額	0	28,952	-28,952
					22	事業収入	91,946	89,303	2,643
21	消費支出	674,409	783,905	-109,496	23	雑収入	20,003	36,230	-16,227
					24	帰属収入	560,842	588,978	-28,136
22	当年度収支差額	-125,734	-207,560	-81,826	25	基本金組入	-12,167	-12,633	-466
23	計	548,675	576,345	-27,670	26	消費収入	548,675	576,345	-27,670

24	翌年度繰越消費 支出超過額	-37,855	-119,681	
----	------------------	---------	----------	--

表V-3 貸借対照表

(単位 千円)

資 産 の 部				負 債 ・ 基 本 金 ・ 消 費 収 支 差 額 の 部					
	科 目	本年度末	前年度末	増 減		科 目	本年度末	前年度末	増 減
25	固定資産	8,240,590	8,490,514	-249,924	28	固定負債	127,916	128,158	-242
26	流動資産	520,827	463,323	57,504	29	流動負債	85,376	82,628	2,748
					30	基本金	8,667,806	8,655,172	12,634
					31	累積収支差額	-119,681	87,879	-207,560
27	計	8,761,417	8,953,837	-192,420	32	計	8,761,417	8,953,837	-192,420

1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収支の内容と支払資金（現金及び預貯金）の収支の顛末を明らかにする。

（1）収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比19%減の8億60,648千円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では、予算比15%減の11億3,012千円となっている（前年度比では5%の増）。

①学生生徒等納付金収入は、予算比1%増の1億67,343千円（前年度比では26%の減）。実験実習料が予算を上回った要因の一つは、EAI（East Asia Institute）が好調だったことである。合計で前年度比が大きく減となった理由としては、今年度より寮に係る費用について、事業収入とする形に戻したことも挙げられる。

②手数料収入は、予算比3%減の4,556千円（前年度比では37%の増）。予算比では受験生が見込みを下回ったこと等による。前年度比で増となったのは神学校最終年で卒業生からもATA学位授与申し込みが相次ぎ、対応したことによる。

③寄付金収入は、予算比41%減の58,563千円（前年度比では7%の増）。3年続けて大口寄付金があった（今年は三谷幸子短大名誉教授の遺言による寄付金）。また、TCU 支援会が年度当初より立ち上げられ、効果が出始めている。

④補助金収入は、予算比22%増の1億42,516千円（前年度比では13%の増）。国庫補助金の一般補助の圧縮率がだいぶ緩和された。また、採用された特別補助金〔未来経営戦略推進経費〕が含まれている。

⑤資産運用収入は、予算比5%減の43,407千円（前年度比では20%の減）。見込みとして予算を最低限で組んだが、実際のところ為替変動等が夏頃から更に厳しかった。

⑥資産売却収入は、予算比55%減の1億58,398千円（前年度比では6%の減）。1本の債券が満期償還を迎えた他、早期償還が1本あった。

⑦事業収入は、予算比3%減の89,303千円（前年度比では70%の増）。前年度比が増となったのは、今年度より寮に係る費用について、事業収入とする形に戻したことが大きい。

⑧雑収入は、予算比7%増の156,411千円（前年度比では61%の増）。

⑨前受金収入は、予算比20%減の47,843千円（前年度比では23%の増）。入学者が目標を下回った。

（2）支出の部

支出の部では、当年度支出合計が予算比23%減の8億48,283千円（前年度比では5%の増）となり、次年度繰越支払資金2億54,729千円を加えた支出の部合計では、予算比15%減の11

億3,012千円（前年度比では5%の増）となっている。

①人件費支出は、ほぼ予算通りの3億59,765千円（前年度比もほぼ同様）。

なお、予算方針に基づき、賞与については支給しなかった。

②教育研究経費支出は、予算比で10%の減で1億55,527千円（前年度比では1%の減）。

予算比増減の主なものの要因と決算額は以下の通り。

（ア）光熱水費支出：24,998千円（3,384千円の増）

削減に取り組み、昨年よりは1,033千円減ったものの、目標にまでは到達しなかった。

時勢上も引き続き削減に取り組みたい。

（イ）旅費交通費支出：7,842千円（4,447千円の減）

スプリング・リトリート等、当初予定を下回ったものがいくつかあった。

（ウ）奨学費支出：49,560千円（5,149千円の減）

教会教職課程奨学金で個々人の状況をよく調べ対応する等、支出削減を図ったこと等による。

（エ）修繕費支出：3,250千円（2,329千円の減）

緊急時対応等に備えていたもの等が金額を下回った。

（オ）補助活動支出：19,572千円（3,325千円の減）

食堂の経費節減等により、当初予定金額を下回った。

③管理経費支出は、予算比で7%の減で30,820千円（前年度比では2%の減）

予算比増減の主なものの要因と決算額は以下の通り。

（ア）旅費交通費支出：4,355千円（1,645千円の減）

学生募集の出張交通費等、予定を下回ったものが幾つかあった。

（イ）報酬委託手数料支出：6,857千円（1,048千円の減）

④設備関係支出は、予算比で22%の増で12,983千円（前年度比では30%の増）

教育研究機器備品支出及び図書費は、研究費分がこちらに多く回った。

⑤資産運用支出は、予算比で60%の減で1億60,816千円（前年度比では6%の減）。

2. 消費収支計算書

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収支の内容及び均衡の状態を明らかにする。

※資金収支計算書と共通の科目があるので、消費収支計算書特有のものについて説明。

(1) 消費収入の部

消費収入の部では、帰属収入合計（学校法人の負債とならない収入）が予算比5%増の5億88,978千円となった〔前年度比では2%（10,214千円）の増〕。基本金組入額は、合計額で予算比4%増の12,633千円（前年度比では31%の減）となり、消費収入の部合計は予算比5%増の5億76,345千円〔前年度比では3%（15,886千円）の増〕となった。

基本金組入額合計の内訳

第1号基本金	12,633千円
第2号基本金	0
第3号基本金	0
第4号基本金	0

①資産処分差額のうち、流動有価証券評価差額は、昨年度末に時価評価した米及びニュージーランドドル建MMFの差額の戻しである。

(2) 消費支出の部

消費支出の部では、消費支出の部合計が予算比19%増の8億5,807千円（前年度比では22%1億44,405千円の増）。

①人件費は、予算比7%増の3億81,436千円（前年度比では9%の増）。退職金支出（資金収支計算書）との差異は退職給与引当金取崩分である。予算対比増の要因としては、年度当初には予期していなかった退職者が教職員各1名いたことと、文部科学省による学校法人会計基準改正による退職給与引当金額の変更により、繰入額が発生したことによる。

②教育研究経費は、予算比6%減の2億50,663千円（前年度比では1%の減）で減価償却額94,326千円を含んでいる。

③管理経費は、予算比6%減の33,534千円（前年度比では6%の増）で減価償却額2,556千円を含んでいる。

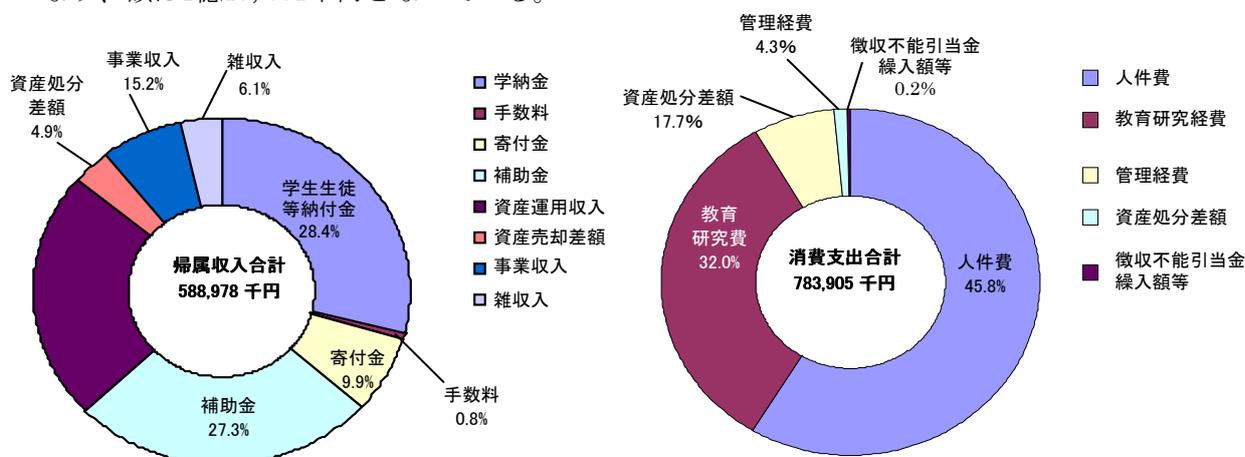
④資産処分差額のうち、固定有価証券処分差額は、早期償還の債券の為替差損による。固定有価証券評価差額は、1本の国有輸出金融公社発行の債券について、当該事業を国有のみとしないという、発行体の方針転換に伴い、価格が取得時の50%未満となったため発生した。

ちなみに該当発行体はその後も債権者に対しての定期償還は順調に行っており、安全性には問題は無い。流動有価証券評価差額は、保有している米・ニュージーランドドル建MMFを年度末時点の時価で評価した差額である。

⑤徴収引当金繰入額は、学生生徒等納付金の徴収不能に対応するため計上している。

(3) 当年度消費収支差額等

当年度消費収支差額は2億7,560千円の消費支出超過額（前年度は1億943千円の消費支出超過額）となった。前年度繰越消費収入超過額と加減すると、翌年度繰越は消費支出超過となり、額は1億19,681千円となっている。



図V-1 2011年度消費収支決算科目別構成

表V-4 主要財務比率

(単位: %)

区分	算式 (×100)	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	64.7 (51.4)	67.1 (52.8)	68.0 (52.6)	60.2 (52.9)	61.0
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	223.4 (71.7)	222.5 (72.3)	180.5 (72.4)	154.7 (72.0)	214.8
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	36.6 (29.7)	42.6 (31.0)	45.0 (30.9)	43.6 (30.9)	42.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	7.6 (8.7)	8.1 (9.9)	6.9 (10.3)	5.4 (8.8)	5.7
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入} - \text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	△10.3 (7.4)	△55.8 (0.2)	△23.1 (3.7)	△14.3 (4.4)	△33.1

※備考 () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による医歯系法人を除く大学法人平均値を示す。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、2012年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示している。

(1) 資産の部

資産の部では、固定資産が前年度末より2億49,924千円減の82億40,590千円。

このうち、有形固定資産は建物（公共福祉棟・国際宣教センター館）の4年目となる減価償却もあり、前年度末より84,868千円減の66億60,197千円。その他の固定資産は、有価証券の減等により前年度末より1億65,056千円減の15億80,393千円。

流動資産は、有価証券が固定から切り替えた分による増等で、前年度末より57,505千円増の5億20,827千円。

資産の部合計は、前年度末より1億92,420千円減の87億61,417千円となっている。

(2) 負債の部

負債の部では、固定負債が前年度末より242千円減の1億27,916千円。流動負債は、未払金、前受金、預り金で前年度末より2,748千円増の85,376千円。

負債の部合計は、前年度末より2,507千円増の2億13,292千円となっている。

(3) 基本金の部

基本金の部では、第1号基本金が、例年通りの教育研究機器備品や図書等に関連する組入れで前年度末より12,633千円増の85億61,774千円。第3号基本金は前年度末と同額で60,031千円。第4号基本金は前年度末と同額で46,000千円。

基本金の部合計は、前年度末より12,634千円増の86億67,806千円となっている。

(4) 消費収支差額の部

消費収支差額の部合計は、消費収支計算書の末尾の金額と同額で1億19,681千円の消費支出超過額となっている。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は、85億48,125千円となり、前年度比で1億94,926千円減となった。